

第 1 章

まちづくりの基本理念と将来都市像

1 まちづくりの基本理念

基本理念は、総合計画の最重要かつ包括的、中心的概念となるものであり、本市にふさわしいまちづくりを行っていくうえでの最高の概念、基本姿勢や目標を表すもので、市が最終的に目指すまちづくりの理念となるものです。

本市のまちづくりの基本理念は、以下のとおりです。

市 民 力 ・ 地 域 力 に よ る ま ち づ く り

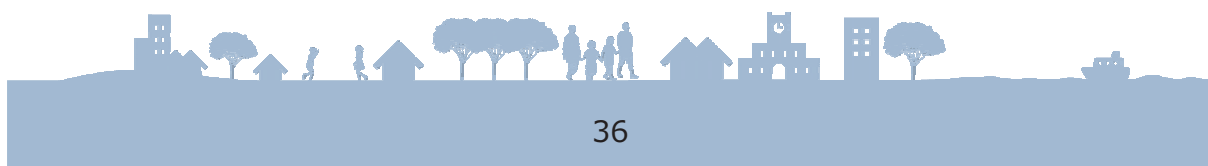
「市民力」とは

本市は、市民力を「地域の課題を自らの知恵と工夫で解決しようとする積極的な自主自立の意識を持った市民の力」と定義します。

少子化、高齢化や高度情報化の進展など社会情勢は変化し、市民一人ひとりの豊かさの概念が変化しはじめています。そのため、市民ニーズが複雑化、多様化してきており、これまでのように公共的サービスのすべてを行政が担うことが難しくなっています。

一方で、価値観の多様化は市民社会の成熟化をもたらし、自己表現や生きがいの場として福祉や環境、まちづくりなどの分野で、自主的に公益的な活動（市民活動）を行い、社会参加、地域貢献する人々の増加にも繋がっています。

本来まちづくりの主役である市民と行政が、それぞれの持つ力を合わせ、活力あるまちにしていく、市民協働によるまちづくりは全国的な広がりをみせています。



「地域力」とは

本市は、地域力を「市民、CSO、企業、行政等が相互に連携し、総合力をもって主体的に地域の課題を発見し解決する力」と定義します。

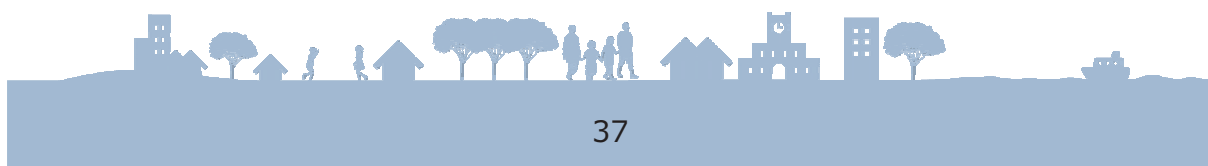
かつては当たり前であった“向こう三軒両隣”といった地域の結びつきは、戦後の経済成長による社会環境の変化に伴い希薄となってきましたが、平成7年に発生した阪神淡路大震災を契機に地域力として見直されるようになってきました。今日においては、防災のみならず、福祉や環境、教育といった多様な行政分野において、地域力という視点とその活用が期待されています。

「市民力・地域力によるまちづくり」とは

人口減少、少子化、高齢化が進展していく中で、市民一人ひとりの知恵や発想を最大限に引き出しながら、活発なコミュニケーションを通じてそれらを組み合わせ、創造的な成果へと結びつけていくことを表現しています。

特に、人口減少時代においては、社会・経済成長の担い手としての高齢者や女性の役割が重要です。様々な経験や知識を有する高齢者や、多様な価値観や感性を持つ女性など、全ての市民が年齢・性別にこだわることなく、誇りを持って積極的に発言・行動をできる環境づくりを基本理念にまちづくりを進めていきます。

なお、第1次唐津市総合計画における基本理念は、「響創のまちづくり」で、唐津市が持つ歴史、伝統、自然が互いに響きあうことにより、より以上の力を発揮し、相乗効果をもたらすという効果を表していました。第2次総合計画ではその理念を引き継ぎ、さらに進化させて行くことを目指しています。



2 将来都市像

本市は、「市民力・地域力によるまちづくり」を基本理念とし、生活環境や立地環境等を最大限に活かして、若い世代が将来にわたり住みたいと思い、誰もが住みよいと思うまちづくりを展開するため、下記を平成 36 年度に本市が目指すべき将来像として定めます。

海と緑にかこまれたここちよい 唐津

「海と緑にかこまれた」とは

本市の持つかけがえのない豊かな自然環境を最大の地域資源として認識し、守り育て、全ての市民の参加と協力の下で、次世代へと引き継いでいくという強い意思を表現しています。

また、唐津に来たことがない人でも唐津をイメージできるように、平成 25 年度に行った市民アンケートで「10 年後の唐津をイメージできるキーワード」として、上位であった「海」「緑」というキーワードを用い、玄界灘の「海」と、豊かな田園と山林の「緑」に本市が包み込まれていることを表現しています。

「ここちよい」とは

- ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備
- ・子どもたちを地域で見守り育てていく地域コミュニティの結束
- ・地域に育てられた子どもたちが地域で働くことによるまちの活性化
- ・歳をとっても地域で生きがいを持って生活していける安心感

など、生まれてから死ぬまで安心して住み続けられるまちを表現しています。

また、すべての訪問者がここちよいと感じ、満足してもらえるような、市民のおもてなしの心も表現しています。

